

財団だより

<第77号>

特 別 号

一般財団法人 全国強制抑留者協会
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-8-2
九段第二勤業ビル2階
TEL 03-3261-6565 FAX 03-3261-6548

シベリア抑留関係者の皆様へ

◆中央慰霊祭開催のお知らせ◆

シベリア・モンゴル等に抑留され、死亡された
方々の中央慰霊祭を左記の通り開催します。

◆日時

令和四年十月十三日（木）
午後一時より

◆会場

都市センターホテル
(三階コスモスホール)
東京都千代田区平河町二一四一
TEL〇三―三二六五―八二一一
(代表)

主催
一般財団法人全国強制抑留者協会
後援
総務省

◆申込方法

参加ご希望の方は、郵便番号・住所・氏名・
電話番号をご記入の上、往復はがきで
九月十二日(月)迄にお申し込み下さい。

◆宛先

〒一〇二一〇〇七三
東京都千代田区九段北一―八―二
一般財団法人全国強制抑留者協会
TEL〇三―三二六五―八二一一

新型コロナウイルス感染防止のために

ご協力お願い致します。

- 一 当日は（一財）全国強制抑留者協会へ予め参加登録された方以外のご参加はお控えください。
- 二 当日、発熱や咳、喉の痛みのある方と体調のすぐれない方は慰霊祭のご参加をお控えください。
- 三 慰霊祭開催中も含め、常にマスクの着用をお願い致します。
- 四 会場入場前には体温を計らせて頂きます。併せて手指の消毒を係員が行いますので予めご了承願います。
- 五 当日、慰霊祭の「しおり」は手渡しいたしません。着席予定の椅子に配付致しておきます。
- 六 慰霊祭会場内でのお席では、必要以外の移動や会話はなるべくお控えいただきますようお願い致します。
- 七 参加者の献花は、全ての式次第終了後、改めて司会者からご案内いたします。
- 八 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況により、開催を中止する場合も有ります。

私のシベリア抑留

シベリア強制抑留と父

愛媛県 清水妻子



私は子どもの頃、父の夢を見ました。生まれて一度も会えなかった父が、故郷の砂浜に黙って立っておりました。ただそれだけの事ですが、今も忘れることができません。

父は広島県呉市で建設業を営んでおりましたが、昭和十九年二月、満州へ二度目の出征を致しました。その時母は四女の私を身籠っていて、父は妻子と名前を付けて行きました。

空襲は激しくなり、家は全焼して、昭和二十年、松山市（旧温泉郡）中島栗井へ引き揚げました。

島には祖父母が待っていて、農業と行商をしており、母は一人で豆腐の製造販売をして、私達三人姉妹を育ててくれました。（長女は十二歳の時死亡）、母は夕方から隣地区へ豆腐を売りに行きます。

姉が店番をして、私は幼い頃から母に付いて行きました。約一時間弱、山道を歩きます。

追いに豆腐を載せて背負い、幼い私の手を引いて、民家を一軒ずつ売って歩きます。

帰る頃には月や星が輝いていました。夜の山道を歩きながら、母とお話をするのが楽しみでした。峠を越えると、海に月が光っていて、野忽那島が明るく見えました。

夕飯は姉が作った質素な料理を頂きます。夜九時過ぎになります。

この故郷の思いでは、今も私の心の支えです。母は昭和六十年胃癌にて他界、享年七十二歳でした。「お父ちゃんの所へ行きたい」と言い残して……。

私は父の事をもっと知りたい、シベリアへ行きたい

と思い、父について十年余、調査をして多くの方のお世話になりました。

平成九年全国強制抑留者協会愛媛県支部結成の時、集會にお邪魔して、シベリア抑留帰還者の方が大勢居られたのはびっくりしました。大歓迎されて、温かい空気に包まれました。

おかげ様で、平成九年・十六年・二十年と三度念願のシベリア慰霊訪問に参加させて頂きました。

アムール州クイブシエフカ八八病院は建物がそのまま残っていて、今は学校になっていました。父はどの病室で、どんな思いで最期を迎えたのでしょうか。ただ、庭の大木が西日に枝をさ揺らせているだけでした。

ここから五キロメートルの所に有る、日本人墓地をお参りして、父に通じる様にと土に手を置いていました。

平成十六年、二度目にこの墓地を訪ねた時には、日本人五百六十一名の広い墓地全体が、ロシア人墓地に変わっていました。日本人の御霊は押し潰されている。一部遺骨収集されても、まだ多くの犠牲者が眠っておられるのに……、怒りが爆発しそうです。他の埋葬地も行く度に荒らされていて、愕然としました。消されない為にも、全ての埋葬地に墓標をお願いしたいと思います。

私達の世代も高齢になりましたが、今出来る事を協力し合って実行する事が大切だと思います。

戦後七十七年が経過し、シベリア抑留体験者は徐々に少なくなり、シベリア抑留の記憶は薄れつつあります。このため、財団だより編集委員会では、シベリア抑留の記憶を次世代に伝え、平和への思いをつなぐ取り組みとして、シベリア抑留体験の手記（祖父母や親から聞いた話とその感想なども可）を募集します。

集まった手記は、「私のシベリア抑留」と題して、財団だよりに掲載することとしています。

また、当時の写真やスケッチも併せて募集します。

「シベリア抑留体験」手記の募集

応募方法

住所、名前、連絡先電話番号を記入の上、手記（様式は問いません。一二〇〇字以内）や写真等を添付して、下記の応募先へ、郵便、e-mail等によりお送りください。

応募先

〒一〇二一〇〇七三
東京都千代田区九段北一―八二―一
一般財団法人全国強制抑留者協会
電話〇三―三二二六―一六五六五
e-mail: yoshida@zaidan-zenyokukyoo.or.jp

令和四年度 実施事業（十月～十二月）

一、シベリア抑留関係地方展示会

埼玉県支部 十月二十九日～十月三十日
埼玉県越谷市南越谷地区センター
新潟県支部 十一月二十五日～十一月二十七日
新潟県新潟市NEXT21市民プラザ

二、シベリア抑留体験の労苦を語り継ぐ集い

埼玉県支部 十月三十日
埼玉県越谷市南越谷地区センター学習室
新潟県支部 十一月二十六日
新潟県新潟市NEXT21市民プラザ

三、シベリア抑留関係者慰霊祭（中央・地方）

中央慰霊祭 十月十三日
東京都千代田区都市センターホテル
福岡県支部 十一月六日
福岡県福岡市護国神社内「参集殿」
静岡県支部 十一月八日
静岡県富士市中島公園慰霊碑前